

ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」

3本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 H31. 4. 10

入学・進級おめでとうございます！

【「元気に登校、笑顔で下校」する毎日をめざして

このたびの異動により、中津川市立川上小学校より赴任しました校長の宮地 敏彦（みやち としひこ）と申します。私を含め転入した職員一同、保護者・地域の皆様方から“共栄地域の一員”として認めていただけるように誠心誠意の働きを心がけていきますので、よろしく願いいたします。

共栄小学校の新しい年度が、新入生46名を迎え、全校児童357名、転入職員6名を加えた職員33名（ALT、SC等も含む）でスタートしました。



『共栄小学校は子どもたちが素直で明るく、保護者や地域の方達が親切で、教育活動にも惜しみなく協力してくださる。とてもよいところだ。』と多くの人から聞いています。今日までにそれを実感することがいくつもありました。春休み中に児童館や“たじっこクラブ”（学童）を訪れた時、たくさんの子が寄ってきて明るい挨拶をしてくれました。また、早朝に地域を歩いている時、挨拶を交わして転入職員であることを伝えると、地域の方は『がんばってね。』と言葉をくださいました。このような素敵で、私たち教職員は児童の笑顔を守り成長を支えるため、また保護者との信頼の絆をさらに強くし安心を保証するため、そして学校が地域の希望となるために尽力していかなければならないと強く感じています。

本校がめざす学校の姿は、具体的には次のようです。

「子どもも職員も元気に登校、笑顔で下校 ～“ありがとう”がとびかう学校～」

小学校では、義務教育を終えてひとり立ちする時の出口を常に念頭に置いて、自信と誇りと思いやりをもつ児童の育成に努めます。「元気に登校、笑顔で下校」が実現するように、始業式では、一年を通して頑張ってもらいたいこととして、児童に次のような話をしました。

【自分の“良さ”（強み）をいかす!】

学校で学ぶ算数や国語の学力が向上することは大切なことであり望むところですが、それだけでは十分ではないということを知っておくことは大切です。逆に、それらの力が不足していても、自分の得意（好き）な能力を使って苦手なことをカバーできるということを知っておくことも大切です。自分が得意な（好きな）力を使って生きていくことができれば、こんな幸せなことはありません。小・中学校のうちから自分の“よさ（強み）”について意識する習慣ができていれば、自分の特性をしっかりと把握した上で将来の進路を考えることができます。欠けている力があっても、別の力で補えることがわかっているからあわてたり、悲観したりすることもなくなります。人間は誰も足りない部分や弱いところがありますが、全ての子がキラリと輝くよさ（強み）をもっているものです。それを子どもたちに伝えることで、自信と誇りをもたせること、同時に他者を敬い、思いやることを教えることが私たち大人の大切な役割だと思えます。

【あいさつは幸せづくりの第一歩】

活動の三本柱のひとつに「さわやかあいさつ」があります。学校の授業や諸活動、一般社会における仕事やスポーツ、学びの場等、全ては「礼に始まり、礼に終わる」ことが、日本では伝統文化として定着しています。挨拶をすることによって相手を尊重し、挨拶する相手と、挨拶できる健康な自分がいることに感謝する心をもつことができます。人に優しく、謙遜な国民性はそこから養われています。また、日常の出会いにおいても、人とつながるその始めが挨拶です。目を見て、笑顔で挨拶することができれば、それだけで相手は嬉しい気持ちになり、自分自身も嬉しい気持ちに満たされます。

新学期のスタートに元気を生み出すのはあいさつです。家庭と地域、学校が一体となって“さわやかあいさつ”をますますふやしていきましょう。